

ウイメンズ ブックス

第67号

1998年

Women's Books

5月25日発行

女性の本の情報誌・ウイメンズブック友の会会報

ウイメンズブックストア

発行所 有限会社 松香堂書店

本社 〒602-8048 京都市上京区下立売通西洞院西入る

土・日・祝日休み TEL/FAX 075-441-6905

天満橋店 〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号

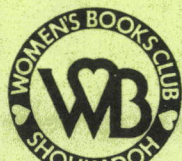
ドーンセンター内

水曜定休・祝日代休あり

6月1日より TEL・FAX 06-910-6115 TEL 06-910-8627

郵便振替口座 00900-5-309395

(入会金800円 年会費個人2,200円 団体及び海外会員3,000円)



このリストの書籍をご希望の方は、同封の振替用紙の通信欄でお申し込み下さい。書籍代は送料共でお振り込みくださいますようお願い致します。

ご注文の本の定価の合計額に、下の表の送料を合わせてお送り下さい。なお、お電話でのご注文も受け付けています。

2,000円まで 400円

2,001円～4,000円まで 500円

4,001円～10,000円まで 600円

10,001円以上 700円

電話・ファックス・お手紙等のご注文は、天満橋店にお申し付け下さい。

本誌からの無断転載・コピーはお断りいたします。

最新刊情報

フェミニズム・女性学…P1 仕事…P3 家族・結婚…P4
 ころ・癒し…P5 子育て…P6 からだ…P6 性…P6
 女性史…P7 自伝・評伝…P7 エッセイ・文学…P8
 高齢問題…P8 その他…P9 資料…P10
 雑誌…P10 文庫になった本…P10 ミニコミ…P14



(ここに表示してある価格は、便宜上消費税5%を含んでいます)

『フェミニズム・女性学』

『インターコース 性的行為の政治学』

アンドレア・ドウォーキン

寺沢みづほ訳

青土社 1998年5月 2520円

「最もプライベートな関係とされるセックスの中に、実は社会制度や社会の価値観が確固として介在しており、性行為の中で女の劣位が強化されている」という主張をした本書は、世界中に衝撃を与えた。古今東西の性描写を分析、性交がもたらす差異化を明らかにする。初訳から9年後の新版本。

『女の性と生』

大阪外国語大学女性研究者ネットワーク

嵯峨野書院 1997年9月 3255円

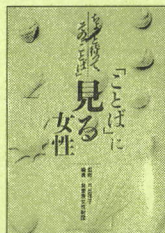
大阪外大の総合科目「女性学」で、女性教官たちによって「女性の立場で女性を語る」試みがなされた。フィールドワーク、インタビュー、意識調査など方法も分野も多種多様な女性学の研究成果が一冊にまとめられた。一つ一つが興味深い15人の論文。

『女たちの生と死』

アンドレア・ドウォーキン 寺沢みづほ訳

青土社 1998年5月 2940円

ポルノによって作られた男性社会が妻への暴力、少女への性虐待を引き起す。著者も、夫から暴力とその恐怖にさらされた。自身の半生を通して、また、シン普森事件、ボスニアの集団レイプ事件などを通して、全世界に蔓延する女性増悪の病理を明かし告発する。迫力のあるドウォーキンの最新刊。



『ことば』に見る女性

—ちょっと待って、その「ことば」

井出祥子監修

財団法人東京女性財団編集・発行

1998年3月 2000円

女性をめぐる「ことば」が辞書で、雑誌で、ことわざや日常でどんな風に表現されてきたかを検証する。

差別と深く関わっている「ことば」を改めて見直すことの大切さを教えてくれる。俵万智、落合恵子たちの座談会の中の落合の「ことば」に納得できる。

『国際分業と女性—進行する主婦化』

マリア・ミース 奥田暁子訳

日本経済評論社 1997年7月 3990円

著者のいう性別分業は性別役割分業とは違う。男性を生産労働者、女性を主婦化し、見えない経済に困いこむことをいう。「文明化」過程の中で女性が差別を内面化してきたこと、現在、資本主義的家父長制の下で進行していることを説く骨太な好著。著者紹介が載っていないのが残念。

『ジェンダーで学ぶ社会学』

伊藤公雄・牟田和恵編

世界思想社 1998年3月 1890円

「生まれる」から「死ぬ」までの身近な事項をとりあげ、ジェンダーの視点で社会を読みとく。平易でしかも適確に書かれた「ジェンダー」社会学の入門書。

『ジェンダー・トラック』

—青年期女性の進路形成と教育組織の社会学』

中西祐子 東洋館出版社 1998年2月 4310円

女性の進路形成の裏に潜んでいる「過程」を、実証的に調査研究。進路分化メカニズムに「ジェンダー・トラック」という新たな概念を提示して、進路がジェンダーに左右されることを明確にしていく。

『視線と差異—フェミニズムで読む美術史』

グリゼルダ・ポロック 萩原弘子訳

新水社 1998年2月 4515円

フェミニズムの視点で美術史学のこれまでを検証し、美術史学が抱えてきた偏りを明らかにしていく。緻密に組み立てられた難解ともいえる議論を、わかりやすい日本語で紹介した訳者に敬意。『女・アート・イデオロギー』に続く古典といわれる書。

『サラを救え！—レイプ被害者に不当な死刑判決』

マリ＝クレール・マンデス＝フランス 垂水洋子訳

凱風社 1998年4月 1890円

16歳のフィリピン人メイドが、刃物を持った雇用主に強姦されそうになり、その刃物で殺害、死刑判決が、アラブ首長国連邦で言いわたされた。世界中の女性、とりわけフランスの女性を中心となって、少女を取り戻すまでのドキュメント。女性の人権、北と南の問題といろいろ考えさせられることの多い本だ。

『出産の歴史人類学』

—産婆世界の解体から自然出産運動へ』

鈴木七美 新曜社 1997年12月 3990円

19世紀、出産が産婆の手から医師の手に移っていった。医師たちは、出産を自然に備わった産婦の産む力を信

じないで、「治療」しようと試みた。これに反対した人たちの中から植物・水治療運動が起る。出産をめぐる歴史人類学的研究。



『女性たちのアイルランド カトリックの〈母〉からケルトの〈娘〉へ』

大野光子

平凡社 1998年2月 2310円

二代続けて女性の大統領を出したアイルランド。ケルト、カトリック、移民、独立問題、文学、ポップ文化

すべてに女性が重要な役割を發揮する。古代ケルトから現在までの歴史を女性を切り口に見直したアイルランド研究。著者のアイルランド文化への思い入れが伝わってくる。

『女性たちの聖書注解』

—女性の視点で読む旧約・新約・外典の世界』

C・A・ニューサム S・H・リンジ

加藤明子 小野功生 鈴木元子訳

新教出版社 1998年3月 6月末迄8925円 7月～9450円

41人の女性研究者たちが、女性のための聖書注解を著した。「聖書原典」を新しい視点で読み解いた。聖書のオリジナルメッセージが後の解釈によって変えられ、それに我々がどんなにまどわせられてきたかを明らかにする。現在の聖書の手引書、標準的文献として認められるまでになった。

『女性と人権—歴史と理論から学ぶ』

辻村みよ子 日本評論社 1997年12月 4725円

「女性の人権」とは何か。「近代的人権」の成立が女性の権利をいかに疎外したか。そしてそれをとり戻す運動。日本における「女性と人権」は？等々、歴史と実態と、今後への展望を見る。憲法学者の著者の力作。

『シングル単位の社会論』

—ジェンダー・フリーな社会へ』

伊田広行 世界思想社 1998年4月 2415円

著者の家族単位から個人単位の社会構築の主張を具体化するために、法律、福祉など諸制度を点検、見直しを提案する。性差別の構造を明らかにすると共にジェンダーフリーへの道がどこにあるのかを考察する。

『誰からも好かれようとする女たち』

モナリザ・シンドローム、微笑みの心理』

ウーテ・エーアハルト 平野卿子訳

講談社 1998年1月 1575円

ドイツの女性も日本の女性も同じ。刷りこまれた「受け身の役割」と自分だけの時間や空間を諦めている女

たち。「生意気な娘」になるノウハウが具体的。タイトルをロゴにしたTシャツがよく売れているという。

『男女平等の本』

ノルウェー・ジェンダーフリー教育用テキスト
生徒用テキスト1～6 教師用指導書(上)(下)
インゲル・ヨハンネ・アルネセン アウド・ランボー
男女平等の本を出版する会
男女平等の本を出版する会 1998年3月 3045円
ノルウェー生まれのすばらしいジェンダー・フリー教育用テキスト。ご活用を乞う。(P12参照)

『中国の女性学—平等幻想に挑む』

秋山洋子 江上幸子 田畑佐和子 前山加奈子
勁草書房 1998年3月 3465円
中国でも女性学が目されている。経済改革、出産・育児観、性別役割、文学などの現状とその背景を探る。中国女性学の誕生から現在までをその担い手が書くなど、中国の研究者の論文を翻訳している。巻末の中国女性学に関する文献リストは本書が初めて紹介した。

『ナショナルリズムとジェンダー』

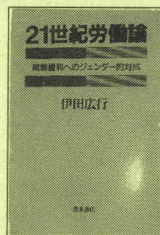
上野千鶴子
青土社 1998年3月 1995円
ジェンダー理論の専門家として「慰安婦」問題に真摯に向き合った著者の態度に好感がもてる。戦時総動員体制、女性の戦争協力にも言及。「『記憶』の政治学」の項は、説得力がある。丁寧な解説の中にも著者のメッセージが込められている。(P16書評欄参照)

『日本ファザコン文学史』

田中貴子 紀伊國屋書店 1998年4月 1680円
中世文学と分類される作品のなかから女性の書いた日記、物語、説話に描かれた「父と娘」の関係をみていく。平安末期の天皇と皇女。『源氏物語』『無名草子』『お伽草子』などから、根の深いファザコン娘と父の関係を探る。ユニークな視点で書かれた文学史。

『21世紀労働論』

—規制緩和へのジェンダー的対抗—
伊田広行
青木書店 1998年2月 2940円
ジェンダーに基づく「家族単位という近代の体系」の見直しは著者の持論。規制緩和という名の保護規定見直し、能力主義がまかり通っている。労働分野、とりわけ女性労働の分析を通して「個人(シングル)単位」の労働システムを提唱する。



『ヌードのポリティクス—女性写真家の仕事』

笠原美智子 筑摩書房 1998年2月 2730円
著者は、東京写真美術館の学芸員。数々の名企画で写真界にインパクトを与えている。女性のイメージを徹底的に問い直した日本初の本格的フェミニズム写真批評。写真というメディアの魅力と可能性を語りつづけた。

『美術とジェンダー—非対称の視線』

鈴木木幾子 千野香織 馬淵明子
ブリュッケ発行 星雲社発売 1997年12月 4200円
「ジェンダーの視点から見る王朝物語絵」(池田忍)。「女性の消えた世界—中国山水画の内と外」(宮崎法子)。「イタリア・ルネサンス美術におけるジェンダーとセクシュアリティ」(森田義之)など10論文を収録。女性イメージの分析と、それを生みだした社会システムを考察。美術に刻印された性差を探る新しい美術史学。

『メディアがつくるジェンダー』

—日独の男女・家族像を読みとく—
村松泰子 ヒラリア・ゴスマン
新曜社 1998年2月 3360円
メディアがジェンダーをどのように構成し表現してきたか、家族をめぐるテレビ番組とCM、活字メディアを克明に探っていく。10人の書き手が提示するメディア・リテラシーの成果だ。ドイツにおけるポルノ論争も紹介されている。

『私の居場所はどこにあるの?』

—少女マンガが映す心のかたち—
藤本由香里 学陽書房 1998年3月 1680円
少女マンガの中の恋愛、性、家族、仕事などをテーマごとに分析。少女マンガが見せてくれる愛や性の形は、リボンの騎士、ベルばら、エヴァンゲリオンと時代と共に移り変わる。居場所を求める少女たちの共感を誘うマンガを題材に質の高いフェミニズム批評が展開される。

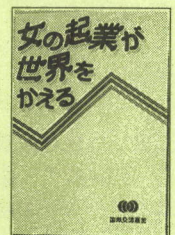
〔仕事〕

『女起業家飛翔のとき』

嶋澤秋生 新風舎 1998年1月 2310円
小説仕立ての女性の起業物語。ヒロインの日常の心の動きはきめこまかく描かれるが、少し古風な表現がテーマとアンバランスな感じがする。

『女の起業が世界をかえる』

国際交流基金編
啓文社 1998年3月 2940円
女性が起業することの意味をグローバルな視点で考える。起業した女性



たちの話、起業の現状と課題、支援対策の日欧比較など参考になる。起業をめざす人、支援事業に携わる人には必読書。しかしこの不況の中で、新しい事業を起していくのは並大抵ではない。

『改正 男女雇用機会均等法の解説』

労働省女性局編

勤21世紀職業財団 1997年11月 1260円

改正男女雇用機会均等法、労働基準法、育児・介護休業法、妊娠中及び出産後の健康管理に関する措置、女性労働者の能力発揮促進のための企業の自主取組など、どう変わったかを解説。資料も収録。

『コミック 男女雇用機会均等法』

男女雇用研究会監修 一橋出版 1998年3月 893円
改正された男女雇用機会均等法を1冊のストーリー漫画で解り易く描いた。

『女性の仕事全カタログ'99』

自由国民社 1998年5月 1365円

450職種の収入・資格・将来性を完全ガイド、一つ一つの職種の内容も紹介していて親切。

『SOHO独立開業ビジネスの素134』

JNEWS 井指賢 SOHOギルド
クラブハウス 1998年1月 1365円

SOHOとはSmall Office, Home Officeの略。家で自分らしく働こうと、SOHO志向の人が増えている。小規模でも独立可能な様々な仕事の内容を紹介。経営戦略、準備に必要な知識など参考になる。

『派遣の花道』

WAVE出版 1998年3月 1470円

61万人という派遣社員は、業種をこえ、年功序列もふっとばす。派遣社員ってどんな人たち？派遣社員をうまくつかう会社、派遣社員は得か損かなど、その舞台ウラを明かす。

『ホームヘルパーになる本

—なるための本・なってきたからの働き方』

沖藤典子監修 晶文社 1998年2月 1470円

ホームヘルパーは、今なくてはならない最先端の職業だ。経験者の話、なるまでにどんなことをすればよいか。なってきたらどんな働き方があるのかなど親切な案内書。

『若い女性の法律ガイド〔新版〕』

大谷恭子 福島瑞穂 有斐閣 1998年4月 1890円
育児・介護休業法、労働基準法など生活にもかかわる

法律が作られたり、変わったりしている。法律をよく知ってトラブルを上手にのり超えよう。男とトラブル、会社でトラブル、遊んでトラブルなど場面ごとにQ&Aで答えてくれる。

『私が会社を辞めた理由—悩めるOLたちの転職』

中山み登り 光文社 1998年3月 1365円

OLたちは職場の不满、将来の不安などで会社を辞める。退職した女性のその後をインタビュー。留学退職しても、その後には何が残るのか。資格を武器にしたキャリアアップも、余程の覚悟がなければ難しいのだが。豊かな日本ならではのOL模様だ。

『家族・結婚』

『家族の現状』

—シリーズ〈女性と心理〉第1巻』

河野貴代美編 新水社 1998年4月 1890円

家庭内(性)暴力、母と娘の関係、父親と子ども、アルコール依存、薬物依存など、今日社会問題化している様々な事象を各々の専門のカウンセラー、臨床精神科医などが実例をあげて、問題のルーツを探っている。

『家族のオートノミー』

丸山茂 橋川俊忠 小馬徹

早稲田大学出版部 1998年3月 3570円

多様化した現代の家族、自在に変容をとげる家族に焦点を置き、家族が社会のあり方を積極的に決定づけていくという側面に目を向けた。法学、史学、社会学等各専門領域の論文集。

『家族のゆくえ—新しい家族社会学』

中村正 人文書院 1998年1月 2415円

家族の形態が多様化し、人々の意識も変化しつつある現在の「家族」。そのありかたと今後の可能性を男性学の視点で切り込んでいる。

『家族のかたち』

本田弘子編著

法政出版 1998年2月 1890円

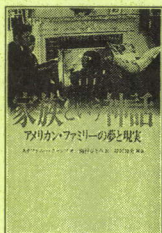
国際家族年から5年。日本法政学会の6人の女性グループの共同研究。「家族のかたち」の変化を追うが内容が表層的なことだけでなく、もっと掘り下げてほしかった。



『家族という神話』

—アメリカン・ファミリーの夢と現実』

ステファニー・クンツ 岡村ひとみ訳



筑摩書房 1998年3月 3990円
この本に描かれているアメリカの80年代と、少子化・高齢社会の中、経済的にも社会的にも危機にさらされている日本と何と似ていることか。危機的状況が起ると非難と批判にさらされる「家族」。だが著者は、アメリカの「家族」神話の真実を示し、「家族の機能不全」の実態を明かす。「家族」を過信する人たちへのメッセージだ。

『家族 それぞれの孤独』

永畑道子 岩波書店 1998年1月 1680円
火の国熊本に生まれ、無頼の血が流れる両親のもとで育ち、挫折の中から書く力を得てきた著者の半生。女と男、親と子のつながりと別れを情感豊かに書き記す。

『今日も娘が学校へ行かない!』

松村加津子 草思社 1998年4月 1575円
登校拒否の子をもつ親の悩みと闘いの日々を綴る。親にも学校にも分からない登校拒否のほんとの理由は? 家族との葛藤、仕事に復帰したいという思い、学校との関係、母親の悩みはつきない。

『「子供を持たない」という生き方』

吉田あゆみ ダイアモンド社 1998年2月 1470円
子どもを持たない22組の夫婦にインタビュー。持てなかった人、持たない選択をした人といろいろだが、著者の「子供を持ちたい」と思うのが当たり前だという思い込みが強いのが気になる。

『シングル単位の恋愛・家族論』

—ジェンダー・フリーな関係へ—

伊田広行 世界思想社 1998年4月 2415円
家族ではなくて個人を、カップルではなくてシングルを社会の単位としたとき、恋愛も結婚も家族もどう変化するのか。買春や援助交際等も含んだ性的問題も真面目に論じている。結婚制度への反省のない不倫、家族関係などに対して手厳しい。

『ドメスティック・バイオレンス』

「夫(恋人)からの暴力」調査研究会

有斐閣 1998年3月 1575円

1992年日本で初の「夫(恋人)からの暴力」全国アンケート調査が行われた。実態とともに、ドメスティック・バイオレンスを生み出し、支え、助長、強化する構造として、①女性の選択肢のなさ②制度としての「結婚」を挙げている点で、一歩踏み込んだものになっている。

『母を語る』

石坂啓他 倫書房 1998年2月 1680円
石坂啓、灰谷健次郎、本多勝一、ホキ徳田など24人が母を語っている。働き者の母、優しい母こわい母いろいろだが、母を語るときみんな素直なんだなあ。

『児童虐待の家族と社会』

井垣章二 ミネルヴァ書房 1998年3月 5250円
60年代アメリカで取り上げられた児童虐待のケースに早期に着目した著者のその後の論文集のまとめ。「調査・研究は何のために」の章は30年近く前の初出だが、今なお新しい視点だ。

【こころ・癒し】

『アダルト・チャイルドの理解と回復』

斎藤学 下坂幸三 鈴木健二他
(有)ヘルスワーク協会 1998年2月 1260円
嗜癖(アディクション)的人間関係が閉じこもり、児童虐待、夫婦間暴力などを引き起すという。精神科医が事例をあげての臨床研究の論文を所収。

『あなたを生かす自己表現』

グレン・ウィルソン 徳永優子訳
同朋舎 1998年1月 1260円
自分の資質を探り、自分を知る、他の人からどんなに見えるか、また見せたいのかななどをふりかえり、気持よく生きるための自己表現。英米の心理学エキスパートによる簡潔なアドバイス。

『スクールカウンセリング入門』

—アメリカの現場に学ぶ—

ダリル・ヤギ 上林靖子監修
勁草書房 1998年2月 2310円
スクールカウンセラーの重要性が指摘される今日、アメリカの現状、スクールカウンセリングの役割を紹介。わが国における現状と将来展望についても言及している。

『青年期における性役割観の形成』

伊藤裕子 風間書房 1997年11月 9450円
性役割同一性の確立と性役割選択を迫られる青年後期の女子を対象に、性役割観、性役割アイデンティティ、性役割選択の相互の関連性と父母の養育態度の影響を調査分析した心理学の研究論文である。この様な基礎的論文がジェンダー研究に果たす役割は大きいことだろう。

『愛することを選ぶ』

自分を解放していくセルフ・ガイド

E・キャンディ D・E・ブラッツ

国谷誠朗 平松園枝訳

誠信書房 1998年3月 2310円

自分を愛せない人は、他人も愛せない。「愛すること」を選んで、実践するためのガイドブック。自分を解放し、受容し、許容し、信頼し、気づく、自由であること、行動すること、変化することへと導く。

『私がわたしを生きる本』

テリー・コール・ウィッターカー 玉置悟訳

KKベストセラーズ 1998年2月 1160円

自分の人生をどう生きるのか。立ち足はだかるものに無意味に腹を立てたり、もがいたりせず、自分のネガティブな部分を見直し、目的に向かった方がいいという。そりゃそうだ！

〔子育て〕

『ものと子どもの文化史』

本田和子編著 勁草書房 1998年1月 2415円

おもしろい本だ。「本田和子の若い仲間たち」が展開する理論を対象に、オリジナリティがありこねた文章も心地よい。ものがたりとは、ものを語ること。その原点を子どもの世界にみつける。やわらかい精神で書かれた好著。

『いま、子どもたちの生きるかたち』

浜田寿美男 ミネルヴァ書房 1998年3月 1680円

いじめ、登校拒否、ナイフ所持、荒れる教室、少年事件、今、子どもたちをとりまく状況は「自分らしく生きられる」のか。子どもたちが過す学校のかたちはこれでよいのか？果して親たちは？子どもたちのありのままを伝える。

『親離れを考えたとき読む本』

堀田あけみ 三笠書房 1998年3月 1260円

親ばなれできない子、子ばなれできない親のもたれあいでは、大人になれない子ができる。親と子は一生の関係だけど関係は確実に変化する。距離を保った親子関係を作るには。

『子どもの虐待をなくすために』

親になるための学校テキスト／オーストラリア』

ジル・ウィルソン 松村京子訳

東信堂 1998年3月 1050円

子どもを放置したり、虐待で死なせたりというのがよく報道される。親として、大人として子どもに対する責任と役割を、学校できちっと教えようとするための「学校テキスト」がオーストラリアで作られた。これはその翻訳である。日本でも役立てられるといいが。

『子供への愛と怒り—親たちのジレンマ』

ナンシー・サマリン 田中千鶴子訳

青龍社 1998年3月 1575円

親におびえて育った子には良心が育たないのだそうだ。子に対する親の怒りは複雑で多様。親子の間に怒りの引き金となる問題を考え、その怒りの矛先をより良い別の方向へ逸らす、実際的な方法を述べる。

〔からだ〕

『イブの産、アダム誕生』

—お産を愛する人たちが語るもうひとつの産—

きくちさかえ

農山漁村文化協会 1998年1月 2100円

「産は病院の分娩室で」というのに疑問をもった人たちが、より自然に産みたいと、自宅産、水中産などを選ぶ。産の歴史、産と文化の関係も見ながらもうひとつのお産を探る。

『女性の体と健康—更年期を乗り越えて』

高田由美子 静岡新聞社 1997年11月 1575円

四十肩、五十肩から膝の痛み、腰痛、骨粗鬆症など、加齢と共に様々な症状に見舞われる。疾患の原因を知って予防もしたい。更年期を乗り越える智恵は？

『女性100万人の苦しみ「子宮内膜炎」』

—日米欧の現状を調べ、克服のための諸手段を探る—

段勲 五月書房 1998年2月 1365円

子宮内膜炎が世界中で増えつつあるという。何が原因で起こるのか。自覚症状、検査法、治療法を述べると共に、体験者の経験談も掲載。痛みを和らげる漢方薬や、民間療法も紹介している。

〔性〕

『「色」と「愛」の比較文化史』

佐伯順子 岩波書店 1998年1月 4200円

「色恋」と「恋愛」の違い、色恋から恋愛への変遷を明治、大正の小説の中にたどる。近世日本人の性感覚、性文化を有名無名の作家たちの作品を通して、「愛」と「色」の中味を明かしていく。近代化する日本の性愛観の比較文化を活写する力作。

『〈性の自己決定〉原論』

—援助交際・売買春・子どもの性—

宮台真司 平野広朗 速水由紀子他

紀伊國屋書店 1998年4月 1785円

「援助交際を選択する少女たち」の実像や「性的自己決定能力」を育む性教育への提案、「性の自己決定権

を確立する法制度」など、各々現場をふまえて発言する。



『性体験』

ナオミ・ウルフ 実川元子訳
文藝春秋 1998年3月 2500円
自らフェミニスト第3世代という著者は、60年代後半からアメリカ全土に吹き荒れた「性革命」の嵐に巻き込まれて成人した。自分と同世代の友人たちの赤裸々な性体験を語り、歴史上の事実、少女たちが主体的に人間性豊かに性に接することの大切さ、性の自由とは何かを強烈なメッセージで伝える。

『セックス 性 世界観—新しい関係性を探る』

伊田広行 法津文化社 1997年12月 1995円
同性愛・トランスジェンダーを含む伸びやかで多様な関係と個人を基礎にした世界観を提示している。男女二分法や生物学還元主義をやめようと主張する。買春にも言及して他者との関係性を問う。

『性からだ』

倉地克直 東京大学出版会 1998年1月 4410円
近世の狂言にみる男と女、キリシタン文献にみる婚姻や男色。墮胎、間引き。世之介をめぐる女たち。農村と都市の性の諸相や、性文化性意識について豊富な資料をもとに詳述している論文集。

〔女 性 史〕

『青木生子著作集 全12巻』

おうふう 1998年2月 セット価格 144000円+税
各巻 12000円+税
上代文学研究、女子教育の先駆者として、日本女子大学の学長も勤めた著者の論文集。

『女の歴史V—20世紀1 (全5巻 10分冊別巻2)』

G・デュビイ M・ペロー監修 F・テボー編
杉村和子 志賀亮一監訳
藤原書店 1998年2月 7140円

「第1次大戦—性による分割の勝利」「ナチズム—ドイツの女性差別政策と女性たちの生活」「ソヴィエトのモデル」「差異と抗争—哲学における女性の問題」などこの20世紀に起った様々な出来事が、女性たちに与えた影響や、両性間に起った激動を歴史学の観点で捉える。

『里から町へ—100人が語るせたがや女性史』

世田谷女性史編纂委員会
ドメス出版 1998年3月 2415円
世田谷の明治・大正生まれの女性100人に個人史を聞き、まとめた。一人一人の話から、今と昔の世田谷がそして日本人の生活が浮かびあがる。

『福田英子集 全1巻』

村田静子 大木基子編
不二出版 1998年2月 16800円
自由民権の時代から初期社会主義時代を一貫して女性の自由と自立のために闘った女性解放の先駆者福田英子の著作、新聞記事、裁判記録など資料、書簡を集め収録。年譜、解題も。女性史研究に貴重。

〔自 伝・評 伝〕

『ヴァージニア・ウルフ

作家の一生』



リンダル・ゴードン 森静子訳
平凡社 1998年3月 5040円
ヴァージニア・ウルフの生涯を、実人生と作品の間を行きつ戻りつしながら見事に描く。綿密な資料検証に基づいて、伝記と文学評論を兼ね備えたウルフ研究の力作。

『歌え、翔べない鳥たちよ

—マヤ・アンジェロウ自伝』

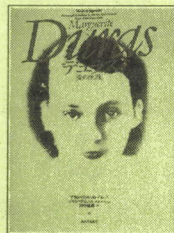
マヤ・アンジェロウ 矢島翠訳
立風書房 1998年2月 2415円
黒人女性詩人の波瀾の人生を語る代表作。第1部にあたるこの書では、少女時代から17歳で未婚の母になるまでを描く。この作品がベストセラーになって、著者はその後多方面で活躍する。日本でも三度目の刊行。

『20世紀をまるごと生きて』

榎田ふき 日本評論社 1998年3月 1785円
激動の100年を生き抜いた著者の自伝。宮本百合子や平塚らいてうとの出会いや戦前の生活。婦人民主クラブ創設、戦後の母親運動等生涯を通して休むことなく信念を運動へと繋げてきた人が自身の生涯を語る。

『デュラス〔愛の生涯〕』

文：アラン・ヴィルコンドレ
写真コレクション：
ジャン・マスコロ
河出書房新社 3990円
小説『愛人』の背景となったイン



ドシナ少女時代、フランスへの帰国、そして映画—マルグリット・デュラスの人生をたどった秘蔵アルバムの写真と文。写真がとても美しい。

『楽天少女通ります—私の履歴書』

田辺聖子 日本経済新聞社 1998年4月 1575円
大阪下町に生まれたセイコは、念願叶って作家になる。田辺聖子の正真正銘の自伝。おセイさんの手にかかる、人生もほんとは楽しい読みものになるんだなあ。

『[増補版] ローザ ルクセンブルクの世界』

伊藤成彦 社会評論社 1998年4月 3885円
著者のローザ・ルクセンブルクに関する論文をまとめたもの。社会主義革命の思想家であるローザの理論だけでなく、彼女の感性豊かな人柄も書き込まれている。ローザ ルクセンブルクの全て。

〔エッセイ・文学〕

『あの^{とき}季^{とき} この^{とき}季^{とき}』

岸田今日子 朝日新聞社 1998年4月 1470円
四季折々の俳句とエッセイ。女優業の傍ら30年も俳句を創ってきたという。仕事、恋、友人のことなどサラリと描く。

『いのち、響きあう』

森崎和江 藤原書店 1998年4月 1890円
性とは、からだとは何か、ことばとは何かと問い続けてきた著者の“いのち”とは何かを問いかける名エッセイ。人のいのちは大自然界の一つぶだという世界観が全編に流れ、子産み、不妊治療と性、家制度のことなど著者の思いが率直に語られる。

『思い出を切りぬくとき』

萩尾望都 あんず堂 1998年4月 1470円
萩尾望都のエッセイを集めたもの。マンガを描くときの裏話、失敗談、編集者とのやりとりなど、本職のイラストも沢山入って楽しい読み物になっている。

『日本の女歌』

竹西寛子 NHK出版 1998年2月 872円
生きとし生けるもの、いづれか歌をよまざりける——と著者好みの歌が流れるように紹介される。初句索引、人名索引の付録が役立つ。

『ナナムの家のハルモニたち』

慧眞 金京子訳 人文書院 1998年2月 2520円
ソウル郊外の「ナナムの家」院長である若い坊さんがハルモニたちを暖かくユーモラスに描き出した。苦痛

にみちた人生を背負ったハルモニたちが暮らす共同生活だが、明るく健気だ。

『野上彌生子全小説 11・迷路(三)』

全15巻(第11回配本)』

野上彌生子 岩波書店 1998年3月 3780円
宇田健解題。「迷路」の第5部第6部にあたる。

『女性作家シリーズ22(全24冊)』

中沢けい 多和田葉子 荻野アンナ 小川洋子
河野多恵子 大庭みな子 佐藤愛子 津村節子監修
角川書店 1998年2月 2730円

既刊

1. 野上彌生子 円地文子 幸田文
4. 宇野千代 瀬戸内寂聴
11. 平岩弓枝 向田邦子
20. 干刈あがた 高橋のぶ子 林真理子 高村薫
14. 竹西寛子 倉橋由美子 高橋たか子

〔高齢問題〕

『余った人生なんてない』

—高齢社会と「医職住+友」

古屋和雄 かもがわ出版 1998年2月 1300円
阪神大震災後の追跡報道からみえてきたもの、長くなった高齢期をのびのびと生きるには、老後の生き方を語る講演録。

『老いの住まい「警告と対策」』

西野洵子 林けい子 三井康栄

(株)JDC 日本デザインクリエイターズカンパニー

1998年2月 1365円

高齢化と住まいの問題を徹底研究。タイマイはたいて入居したケア付き住居もいろいろ問題が—。実例をあげて警告をし、その対策を提案する。

『親が65歳を過ぎたら、男が読む本』

おちとよこ ベネッセ 1998年1月 1470円

親の介護、自分が倒れたらと不安に思った人は、この本を読んでおくといい。「高齢社会：男の安心パスポート」「案外知らない「老化」ってなに!?!」「男のストレッチェックとリフレッシュ法」など老後に直面することを面白く教えてくれる。

『ケアと老いの祝福』

木下康仁 勁草書房 1997年10月 2625円

高齢社会における「老い」の意味を性、夫婦、家族、コミュニティとの関係から考察している。この老人ケアの理論家にしては「老いとジェンダー」の論考には、

不満が残る。

『欠陥だらけの介護保険』

伊藤周平

かもがわブックレット 1998年2月 600円

いよいよ導入されることになった介護保険だが、その問題点を解りやすく述べている。厚生省に権限が集中して、大きな利権が生まれることの危惧に言及しているが、今の汚職まみれの状況を見ると心配になる。

『高齢者の暮らしを支える道具と工夫Q&A』

浜田きよ子 ミネルヴァ書房 1998年2月 1890円

年をとっても身体が不自由になっても自分らしく、それまでどおりの生活が出来るよう、上手に道具を選んでも使いたい。暮らしの工夫と道具を絵入りで紹介。



『高齢者が使いやすい日用品』

浜田きよ子

晶文社出版 1998年1月 1890円

いつまでも自分で自分らしく暮らしたい。そんな願いをかなえるための工夫された日用品。ちょっとした心づかいが道具を使いやすいものにする。できるだけ普通の生活に近づく

よう弱ったところを補う道具。絵入りで詳しく説明。読みものとしてもいいお年寄りのためのガイドブック。

『自立する老後のために』

高見澤たか子 晶文社 1998年2月 2415円

子どもの家族と一緒に暮らすのが、一番幸せなのか？日本の現状、ベルギーやオランダで見た一人暮らしということ、福祉コミュニティのありようなど。人間らしく、ほんとうにしあわせに過す老齢期を考え、在宅、病院、福祉施設の理想のかたちを探る。

高見澤たか子「高齢者の自立と福祉」

『共倒れから共立ち社会へ』

—前進させよう介護の社会化—

高齢社会をよくする女性の会・大阪編

竹中恵美子監修

明石書店 1998年1月 1995円

「家族責任とアンペイド・ワーク」「家族と介護」など高齢社会にとって、大切な問題点を解りやすく伝える。同会の5年間の記録だがどの項も女性の視点で、高齢問題に鋭く切り込んでいる。

『老親の看かた、私の老い方』

宮子あずさ 講談社 1998年2月 1365円

人の病いや死に立ち会う看護婦の立場から否応なく見えてくる「老い」をめぐる人間関係。世間で取り沙汰

される話も嫌味なく聞こえるのは著者ならではの筆。自身の親子関係に重ねて正直に記されている。

『わたしの更年期事情』

—女50代からの生き方革命—

樋口恵子

旬報社 1998年2月 1680円

更年期について沢山の女性たちが自らの言葉でその体験を語っている。コレット・ダウリング、落合恵子などの、自分の体験を通した話も女たちへの励ましになる。医師堀口雅子と樋口恵子の対談は、更年期について治療法まで含めた大変分かりやすい解説になっている。



『わたしは老いる……あなたは？』

—愛、セックスそして生命—

メリリー・ワイズボード 辻 信一訳

新宿書房 1998年4月 2730円

自ら中年にさしかかった著者が老人に対して偏見と差別にみち若さと肉体を尊ぶ、アメリカ社会に疑問を投げかける。ベティ・フリーダンをはじめ多くの高齢者に愛すること、セックスについてインタビュー。高齢者の性生活を通して人生を考えさせる。

〔その他〕

『アメリカ人はなぜメディアを信用しないか』

ジェイムズ ファローズ著 池上千寿子訳

はまの出版 1998年2月 2310円

アメリカのメディアはほんとうに市民が知りたいことを報道せず、政治の権力の行くえばかりに気をとられているという。市民が、ほんとうに知りたいのが何なのかを政治記者はもっと知るべしと。日本でもいえることだ。

『エンパワメントと人権—こころの力のみなもとへ—』

森田ゆり 解放出版社 1998年4月 1785円

エンパワメントとは一人ひとりが持っている潜在的な個性を生き生きと息吹かせることだという。少数民族・女性・障害者への差別問題ととり組んできた著者が、解りやすい言葉で語りかける。子どもや女性に対する暴力とは何なのか、そして癒しとは、真のエンパワメントとは？人権問題をやさしく明らかにしてくれる。

『子どもの人権と裁判』

永井憲一 法政大学出版局 1998年3月 2940円

日本における子どもの人権をめぐる主要な裁判例を集め、一つ一つの判例を、子どもの権利条約の各条文別

に分けて論考している。子どもの権利にかかわる裁判の従来と現在の違いや、どの点に問題があるかなどが明らかになった。専門家だけでなく、私たちも知っておきたい内容だ。

『個人通報制度って知ってる？』

－自由権規約選択議定書の実現をめざして』
申恵半 阿部浩己監修

アムネスティ・インターナショナル日本支部
現代人文社発行 大学図書発売 1998年3月 840円
個人通報制度入門のブックレット。自由権規約の内容、個人通報制度が日本で実現したらどう変わるのか。とかく人権問題に鈍感な日本も個人通報制度で、人権が守られやすくなるだろうと主張する。

『メス化する自然－環境ホルモン汚染の恐怖』

デボラ・キャドバリー 古草秀子訳

井口泰泉監修・解説 集英社 1998年2月 2100円
メスに性転換していく魚、生殖不能となったオスのワニやヒョウ、人間の精子の激減といった現象が報道されているが、その原因は？“環境ホルモン”といわれる内分泌かく乱物質の正体を探る。既に対策を講じ始めた国々もある。日本国内の実情がわかる解説付き。

〔資料〕

『国連・女性・NGO－活動の手引き』

国連NGO国内婦人委員会

(財)市川房枝記念会 1997年12月 1470円

国連NGO国内婦人委員会創立40周年記念の資料集。NGOが女性の地位向上に果たした役割がよくわかる。女性に関わる宣言、条約、行動計画の重要な部分掲載。記念シンポジウムも収録した小冊子。

『国民生活選好度調査 平成9年度 女性のライフスタイルをめぐる国民意識－勤労、家庭、教育』

経済企画庁国民生活局

大蔵省印刷局 1998年3月 1218円

『近代女性文献資料叢書(全10巻)』

女と生活1 第5期配本 1997年11月

女と生活2 第6期配本 1998年4月』

中嶋邦監修 大空社 121800円(税込)

女性史・女性学研究のためのテーマ別による重要文献資料。明治期・大正期。羽仁もと子、山脇房子、太田梅子ほかの著作などが収録されている。

既刊 女と戦争1、2 全24巻別冊1 191262円＋税

女と職業1、2 全24巻別冊1 221359円＋税

『日本女性史論集全10巻 6 女性の暮らしと労働』
1998年3月

『日本女性史論集全10巻 7 文化と女性』1998年4月
吉川弘文館 各5985円

『女性問題総目録'98』 女性問題図書総目録刊行会
1998年5月 300円

〔雑誌〕

『月刊女性情報 特集 女たちをめぐる1997年』
バドウイメンズ・オフィス 1998年1月 2752円

『月刊女性情報 特集 家族って何?』
バドウイメンズ・オフィス 1998年2月 2752円

『月刊女性情報 特集 長野冬季五輪』
バドウイメンズ・オフィス 1998年3月 2752円

〔文庫になった本〕

母性という神話 E・バグンテール 鈴木晶訳
ちくま学芸文庫 1470円

愛の美学 森 瑤子 集英社 520円
子供だけは生みたい症候群

古澤由美子 幻冬社 480円

再婚時代 円より子 ちくま 714円

スパイスのミステリー 落合恵子 文春 500円

あたしが海に還るまで 内田春菊 文春 460円

看護婦が見つめた人間が死ぬということ
宮子あずさ 講談社 520円

グレープフルーツ・ジュース
オノ・ヨーコ/南風 権訳 講談社 680円

泥棒のB
スー・グフトン/嵯峨静江訳 早川書房 632円

無実のI " " 652円

殺害者のK " " 798円

クッキング・ママの検死書
ダイアン・デヴィッドソン/加藤洋子訳
集英社 740円

アクアリウム 篠田節子 新潮社 500円

交差点で石蹴り 群ようこ " 500円

愛するもののために 門野晴子 学陽書房 693円

アダルト・チルドレンと家族
斉藤 学 学陽書房 693円

七歳までは夢の中 松井るり子 " 693円

ガーディアン・エンジェル
サラ・パレッキー/山本やよい訳 早川書房 754円
神鳥 篠田節子 集英社 570円

— 海外だより —

〔ドイツでの女性学・ジェンダー研究〕
連載第2回

国際会議

「21世紀への変革のカー日本と
ドイツの女性運動は社会をどう
変えるのか」

前 みち子

異なる歴史と社会的・文化的背景を持ちながらも、西と東の近代化の担い手であり、同時にジェンダーについては同じ様な矛盾をはらむドイツと日本。グローバル化、国際化、経済構造の革新は、日本、ドイツ両国の様々な分野における社会文化の構造を根本的に変化させつつある。この複雑に変わる社会のなかで60年代末から始まった女性運動は、家族や人間関係だけでなく、労働、高齢化社会、市民ネットワークや国際化など幅広い領域にわたって、社会問題解決へのコンセプトを提供し続けてきたが、グローバル化する世界の中で日本とドイツはその発展過程で多くの接点を持っており、比較の視点は両国の問題解決に新しい視点を開く大きな可能性を秘めている。この二つの社会において女性運動は、さまざまな社会問題にどんな影響を及ぼし、それとどう取り組んできたのか。「21世紀への変革のカー日本とドイツの女性運動は社会をどう変えるのか」と題して、去る3月デュッセルドルフ大学現代日本研究所ジェンダー研究科ではドイツ、カナダ、日本からの研究者を迎えて二日間にわたる国際会議が行われた。日本からは上野千鶴子さんと船橋邦子さんが発表者として参加した。

まず第一日目はドイツ、カナダと日本での女性運動の現状分析と展望を含めた三つの基調講演で始まり、二日にわたって1仕事、2家族、個人化、性/身体性、3新しい組織としてのネットワーク、4国際化、の4つのセッションでドイツと日本側の報告者の発表と討論があり、最後にパネルディスカッションが行われた。

旧西ドイツの第二期女性運動は、男女同権闘争ではなく自律権と自己決定権に政治目標がおかれた。この背景には、完全な民主主義の下で育った初めての世代である学生運動の担い手たちが女性問題を切り捨てたため、女性たちは二重の意味で権威主義的慣習と社会機構を克服し、真の民主主義を築き上げるという使命感を持ち、女性の要求を無視する家父長主義への闘いを挑むことになった。これは個人的自己決定権を獲得することと既成の政治的機関や形式から独立し、また男性を排除した分離主義的な独自の組織を作ること

を意味していた。

リプロダクティブ・ライツと性暴力の問題は、これまで私的生活領域とされてきたセクシュアリティ、男女関係、母性、家族を政治問題の対象にしたのであり、国際的にも共通して第二期女性運動の中心的役割を果たしたのだが、ドイツの女性運動でも固有な特色を示すテーマである。リプロダクティブ・ライツの問題は刑法218条の中絶禁止法反対運動として展開され、尖鋭化された。ドイツの女性運動プロジェクトのなかで最も大きな成果が見られるのが、フラウエンハウス(女の家)といわれるシュルターの設立運動であり、この関連問題が「女性プロジェクト」時代を切り開いた。女性への日常的直接的な暴力の問題は、家父長的社会の暴力的構造を明らかにし、男性の暴力ポテンシャルが、性差別社会における女性の差別、侮辱、軽視などの総合的な象徴となった。「女の家」プロジェクトは自律的であるが、国家の補助を受けるのは、社会扶助的な意味ではなく、憲法に掲げられた男女同権と社会の家父長制的現実との矛盾を公費請求の根拠としている。「私的なことは政治的」という女性運動のモットーは、既成の私的、公的領域の境界線を確実にずらし、価値観の変化に決定的影響を及ぼした。

そのような内容的成果にもかかわらず、女性運動はドイツでも構造上の社会的法的不平等を根本的に取り除くことに成功していない。現在ドイツの女性運動は一方でそれぞれのテーマの専門化が進むなかで活気がなくなったとされているが、歴史的に見て女性運動を盛衰のある息の長い「波」のイメージで捉えることには意味がある。また日本同様ドイツでも女性運動を次の世代にどう伝えていくかが大きな課題になっている。

この問題については、自分たちの世代が男たちの支配から自由にならなければならなかったように、娘の世代も自分たちから距離をおいて自己定義し、自己決定権を勝ち取っていくことの必然性を理解し、この両世代に共通のプロセスのなかに連帯性を見い出していくことが提言された。二日間の熱気に満ちた議論のなかで比較の視点と多様性を認め合うこと、そして国際的ネットワークがいかに重要かが改めて認識された。

(デュッセルドルフ大学教授)



あなたの情報・わたしの情報

『第13回 女性学シンポジウム 女性に対する暴力 ～フェミニズムからの告発～』

と き 1998年7月18日(土) 10:30~16:00
 と ころ 京都アスニー
 主 催 京都市生涯学習総合センター
 後 援 日本女性学研究会
 企 画 フェミニネット企画
 パネラー 森田ゆり CAP(子どもへの暴力防止)
 プログラム紹介者
 福原啓子(かながわ・女のスペース“みず
 ら”)
 コーディネーター 渡辺和子(京都産業大学教員)
 参加費 1,600円(学割1,200円)
 問合せ 京都市生涯学習総合センター2F
 申込み 「生涯学習情報デスク」
 Tel 075-812-7222
 Fax 075-803-3017

女性に対する暴力はなぜ起こるのか。それを跳ね返す力を持つために、フェミニズムの立場でその構造と解決策を考えます。ぜひご参加を。(中西)

冊子『ちゃめ～在日コリアン女性のための エンパワーメント・ワークショップ』 グループ大阪“ちゃめ”

1997年2月、横浜で、カナダのカウンセラーのリンダ・ジンガロさんを招いてワークショップを開いた報告集です。

在日コリアン女性たちは日本社会で生きのびる戦略として長い間、順応・同化・回避・極端な個人化をとってきました。同時に、民族的な啓発も沢山おこなわれてきましたが、民族と向きあうことができても「自分」と向きあい、自分の人生とタイアップすることが果たしてできたでしょうか。このワークショップは自分自身をスタートとして「生きのびる戦略」を克服し、解放のための戦略を手に入れて在日コリアン女性がちゃめ(朝鮮語で姉妹)のようなネットワークをもつことをめざしたものです。在日コリアン女性の“今”にこたえる冊子です。1部525円(税込)

『ノルウェー・ジェンダーフリー教育テキスト 「男女平等の本」』

(小学1年生～中学生用・生徒用6冊と教師用指導書2冊の8分冊セット)

「ノルウェー男女平等の本を出版する会」代表
荒川ユリ子

著者は男女平等教育に長年携わってきた二人の女性。子供たちが伝統的性別役割分業にとらわれず自由に自分の生き方を選択できるようにと、熱意をこめて書き上げた本。日本版タイトルは「男女平等」だが、原本のタイトルは「平等であること」が、この本の内容をよく表している。こんな「テキスト」に子供の頃出会っていたら、自分の人生は変わっていたのではないかと思わせる本。1校でも多く使ってほしいテキスト。

8分冊セット価格3045円(税込)[分売不可]

『Better Care』: 介護の現場へ届けたい雑誌 をよろしく

芳林社 野田真智子

'97年末に創刊の「介護する人」を支援する季刊誌『Better Care』は、今年4月、第2巻(春号)を発行した。介護に絶対的な「ベスト」はなく、それぞれの環境や事情によってその仕方や関わり方は違う。できるだけ多くの方々への体験や意見を大切に、「より良い介護」を目指して情報を提供する。

内容は、全国の介護現場(在宅・施設を問わない)のドキュメントと、団塊世代の著者の「老い」や「介護」に関するインタビュー、介護を支える各種のプロや新しいケアの試みの紹介など。さらに、主要コンセプトとしてツーウェイ・コミュニケーションを掲げ、読者自身の介護体験や、意見、感想、提案など、本音の言葉を積極的にとりあげる。創刊号には500通近い返信が、切々とした現場の声として寄せられた。

この雑誌は、松香堂のほかは、基本的には直接購読。読後、介護をめぐる日ごろの思いなどを、どんどんお寄せいただき、読者と編集部間だけでなく、読者相互の活発な会話が生まれることを、編集部では念じている。340円(税込)

*この欄で紹介された本は松香堂で扱っています

●Information from SHOKADOH

●天満橋の電話・FAX番号が変わります。(6月1日より)

TEL・FAX 06-910-6115 従来の06-910-8627は電話のみとなります。

●本社事務所が移転します。(7月1日より)

移転先・〒604-0024 京都市中京区下妙覚寺町185-804

電話 075-253-1860

FAX 075-253-1861

連載 第63回

ミニコミの女たち

働く母の会

山内 幸子

「働く母の会」(1954年創立)は、女性も子供を育てつつ職業を持ち、自立したいという当然の権利を守るため、力を合わせて保育所開設や、学童保育運動を全国に先がけて実現させてきた、44年の歴史を持つ団体である。

1990年にはこの記録を『働きつつ育てつつー保育所を作った母たちの軌跡』(ドメス出版)、1994年には『私たちはこうして大きくなった』(ユック舎)を作成した。

この間に、男性優位の各々の職場で、パイオニアとして多くの壁を乗り越え定年まで仕事をやり遂げた会員が相当数に達したので、1997年その生きてきたありのままの姿を記録集にした。それが『働く母たちの定年』である。昨今定年に関する本は数多くあるが、男性向けのものが多く、女性の、しかも夫があり子供を出産し育て乍らの定年関係の本はこれが初めてではなかろうか。



定年を迎えた「働く母の会」会員たち

記録は、自由記述式のアンケート方式で、①働き始めた頃のこと、②職場、③仕事の評価、④働き続けた意義、⑤働き続けて得たもの、⑥定年等から成り立っている。記述者は百人に及び、分野は小・中・高・大学等の教員、研究所、公務員、出版、新聞等専門職が多く、身分は国や公共団体と大企業勤務者が大部分を占める。各々が男性優位の社会の中にあり乍ら多くの壁にぶつかってそれを乗り越え、自分を成長させてきた生き甲斐や、支持してくれた周囲の人々への感謝等が赤裸々に語られており、読む者の心を打つ。

最近、男女雇用機会均等法が1986年に施行されたが、長びく不況の下、絵に描いた餅と取り沙汰されていたり、労働基準法及び育児・介護休暇法等も予定されているようだが、女性に多くのしわ寄せが来ることは十分予想される。女性労働及び社会進出への方向を示す書として、一読に価するものと思う。

1996年度(財)東京女性財団の助成を受けた。

購入希望の方は042-594-2170(TEL・FAX)河合道または03-3812-2358(TEL・FAX)山内幸子まで。頒価2,100円(送料込)A4判 220ページ

*松香堂でも扱っています。

- 天満橋では、図書カードをお使い頂けるようになりました。どうぞご利用ください。
- 会費未納の方は、お振込をよろしくお願いします。
- 松香堂ホームページ <http://www.nacos.com/shokado/>
- E-mailでもご注文いただけます。 toyokon@mbox.kyoto-inet.or.jp
- 1999年1月1日より大阪の電話・FAX番号が変わります。06-910-6115 → 06-6910-6115

ミニコミ情報

(松香堂で扱っているミニコミの最新情報です)

- 「れ組通信No.130-「夢見つ深く植えよ」を読んで」
れ組スタジオ・東京 1998年1月 420円
- 「れ組通信No.131-セクシャリティーとヒューマニ
ティとは違うと思うこと。」 1998年2月 420円
- 「れ組通信No.132-3/8国際女性デー・おんなたちの
祭り報告」 1998年3月 420円
- 「女のためのクリニックニュースNo.154-シンポジ
ウム女性への暴力～聞こう!話そう!行動しよう②」
ウイメンズセンター大阪 1998年2月 420円
- 「女のためのクリニックニュースNo.155-リプロダ
クティブ・ヘルス・ライツの果たす役割は①」
1998年3月 420円
- 「女のためのクリニックニュースNo.156-アメリカ
の体験に学ぶ～女性への暴力をなくすための援助の
ありかた～」 1998年4月 420円
- 「月刊家族第144号-特集 高校生が考える家族・仕
事・パートナー」 家族社 1998年2月 315円
- 「月刊家族第145号-特集 育児・育自スペース今昔-
時代と地域を映して」 1998年3月 315円
- 「月刊家族第146号-特集 人はどのように介護を引
き受けていくのか」 1998年4月 315円
- 「月刊むすぶNo.326-特集 さよなら軍事演習 さ
よなら基地」 ロシナンテ社 1998年2月 800円
- 「月刊むすぶNo.327-特集 ミニコミから市民運が
みえる」 1998年3月 800円
- 「月刊むすぶNo.328-特集 労働現場 人権は守ら
れているか」 1998年4月 800円
- 「VOICE OF WOMEN No.188-女性の日本人男性
論 田中由布子」
日本女性学研究会 1998年2月 158円
- 「VOICE OF WOMEN No.189-モンゴルの夏の体
験しませんか…國信潤子」
(東アジア女性フォーラム参加者募集中)
1998年3月 158円
- 「VOICE OF WOMEN No.190-『女性学年報』18
号の編集を終えて」 1998年4月 158円
- 「Voice第88号-『住民基礎台帳ネットワークシステ
ム』学習会-国民総背番号制を考える-」
住民票統括裁判交流会 1998年2月 210円
- 「Voice第89号-特集 私たちを監視する住民番号ネッ
トワークシステム(-住民の情報のみが丸裸にされ
る-)」 1998年3月 210円
- 「女のからだからNo.151-出生前診断など生殖技術
をめぐる最近おきていること」
SOSHIREN・女のからだから 1998年1月 315円
- 「女のからだからNo.152-厚生科学審議会先端医療
技術評価部-オッカケ報告記」 1998年2月 315円
- 「女のからだNo.153-やっぱり日本産科婦人科学会
はどうしようもない奴らだった」 1998年4月 315円
- 「あごら235号-女の生き方とその評価」
BOC出版部 1998年1月 900円
- 「あごら236号-「経済的自立」と女性」
1998年2月 900円
- 「あごら237号-女の職場-リストラの中で(-均等
法は力になるか-)」 1998年3月 900円
- 「あごら238号-女性と女性センターII大阪市立婦人
会館の建て替えをめぐる」 1998年4月 1050円
「女性と女性センターI」もどうぞ 1050円
- 「くらしと教育をつなぐWe 2・3月号-特集 女性と
表現II」 フェミックス 1998年2月 630円
- 「くらしと教育をつなぐWe 4月号-特集 居場所考」
フェミックス 1998年4月 630円
- 「Fifty:Fifty 37-特集 スクリーンの中の「性の政
治学」」 Click 1998年2月 450円
- 「異文化の交差点 イマージュvol.12-特集 ディー
プ大阪」 イマージュ 1998年4月 525円
- 「わいふ270号-特集 青春の冒険」
わいふ編集部 1998年3月 560円
- 「わいふ271号-特集 思い出の着物・思い出の洋服」
1998年5月 620円
- 「GAZETTE No.64-FCT市民のメディア・フォー
ラムへ-21世紀への歩みを展望する-」
FCT市民のメディア・フォーラム
1998年3月 683円
- 「HEARTあいNEWS No.20-特集～ママに聞くホン
ネ②～」 BBB・OSAKA 1998年1月 315円
- 「HEARTあいNEWS No.21-特集～メディアリテラ
シー1～」 1998年3月 315円
- 「パワーアップニュースVOL.25-山下敬子さんイン
タビュー「フリースクールは風」」
パワーアッププランニング 1998年3月 315円
- 「シネマ・ジャーナルVol.43-特集 読者とスタッフ
が選ぶ'97ベスト10&20」
テス企画 1998年3月 840円
- 「環境イベントガイドPico Vol.6-特集 アレルギー
自然とつながる」
環境グループガイドを出版する集まりEGG
1998年3・4月 368円
- 「メンズネットワークNo.40-特集 オトコが会社を
捨てる時 会社に捨てられる時」
メンズ・センター 1998年3月 315円
- 「ピーマン・インフォメーションNo.49-ピーマン・
フォーラム「週末の達人」が語る人脈創りのコツ」
ピーマン・ネットワーク 1998年3月 840円
- 「TOK・TALK3月号-くらし・結婚・健康&ダイエッ
ト 懸賞などの情報」
情報サークルTOK・TALK 1998年2月 525円
- 「IBU-IBU vol.15-特集 フッの離婚」
トランタンネットワーク新聞社 1998年2月 315円
- 「トランタン新聞Vol.36-特集 子育てサークル・サー
クルリーダーの条件」
トランタンネットワーク新聞社

- 1998年3月 210円
 「グリーン・レターVoL.9-グリーンな生き方を求めて-インタビュー-」 大阪心のサポートセンター
 1998年春 525円
 「屋台村通信第12号-①神戸児童殺害事件について
 ②メディアと女性の人権について」
 屋台村通信 1998年3月 315円
 「女たちの21世紀No.13-特集『戦争と女性への暴力』
 国際会議」 アジア女性資料センター
 1997年12月 1050円
 「女たちの21世紀No.14-特集 グローバル化と女性」
 1997年4月 1260円
 「シングلز・ネットVOL.36-『シングルとは…?』
 確信犯?シングルの会 1997年11月 263円
 「シングلز・ネットVOL.37-『私たちにあって望
 ましい社会のしくみ』 1998年1月 263円
 「ファイト・バックVol.31-矢野事件・甲野裁判も完
 全勝利」 性暴力を許さない女の会
 1997年11月 525円
 「ファイト・バックVol.32-トラウマ研究者コルク講
 演録」 1998年2月 525円
 「WOMEN AND MEN PAY EQUITY-商社にお
 ける職務の分析とベイ・エクイティ」

- ベイ・エクイティ研究会 1997年3月 1260円
 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツの果たす役割-
 大阪市保健所・クレオ大阪・ウイメンズセンター大
 阪の女のからだ性と性の相談実態調査報告」
 ウイメンズ大阪 1998年3月 1050円
 「家庭科の共修と共学を考えて10年-家庭科の今日と
 明日」 家庭科の共修と共学を考える会
 1998年2月 1050円
 「高齢者この世の極楽銭湯とめし-銭湯コミュニケー
 ションによる-わたしの高齢者福祉論-」
 宮田茂子 1996年3月 263円
 「もし、強姦の被害にあったら」-心理・医療・法
 律」 東京・強姦救援センター 1997年3月 630円
 「働く母たちの定年-百人の証言」
 働く母の会 1997年3月 1680円
 「在日コリアン女性のためのエンパワーメント・ワー
 クショップ1997報告書-ワークショップに参加して」
 (P12参照) グループ「ちゃめ」 1997年5月 525円
 「女性センターで読める女のミニコミリスト」
 「女とミニコミ」研究プロジェクト
 1998年3月 1050円
 女のミニコミを網羅したリスト。



新作ビデオのご案内



「シャーリーとフローレンス-二人の女性の
 友情とセクシュアリティ-」(上映時間 27分)
 製作 カナダ国立フィルム省
 監督 ロニー・ベザレル
 日本語版企画 ビデオドック
 定価 15,000円(税別) L価格 30,000円(税別)
 幼なじみの二人の女性が、各々セクシュアリティや
 異文化との出会いに戸惑いながら成長していく中で、
 深い友情をはぐくみます。

「フィーリング・イエス フィーリング・ノー」
 (上映時間 50分)

製作 カナダ国立フィルム省
 日本語版企画 ビデオドック
 定価 15,000円(税別) L価格 30,000円(税別)
 子ども向けに製作された性的虐待防止プログラム。
 三つのパートからなり、寸劇を通してのアプローチは
 具体的で解りやすく、実践的な防止方法を身につける
 ことが出来ます。

教材ビデオ

「スウェーデンの葬送と高齢者福祉-変わる家
 族の絆」 上映時間(50分)

善積京子(追手門大学教授)監修

M&Kメディア文化研究所

発売 ウイメンズブックストア松香堂

定価 26,000円(内容の充実した教師用テキスト付
 き)(税別)

スウェーデンでは、家族関係の変化によって墓地の形
 態も変わりました。お墓の問題を糸口にして、スウェー
 デンの高齢者福祉や家族関係の変化を捉え、家族問題
 を考えます。(6月下旬発売)

[CD]

「ふんわりふわふわ」

田中美津の『いのちのイメージトレーニング』(筑
 摩書房)に連動して美津自身の声でイメージトレーニ
 ングを指導してくれるCD。

とらたぬレコード 税込2,300円

＜66号の訂正とお詫び＞

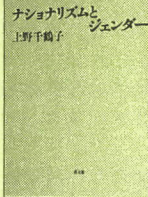
66号9P右段『性を買う男』の項1・3行目 売春→○買春

66号12P右段上から10行目ナムムの家記念館講演会→○後援会

＝書 評＝ 『ナショナリズムとジェンダー』

上野千鶴子著

青土社 1998年 1995円



フェミニズムはナショナリズムを越えられるか、と自問しているこの本を読んだちょうどその日の新聞に、ある世論調査結果が載っていた。女性天皇制支持が過半数であった。現在の日本では、元首と象徴が役割分担をしているのであって、象徴は戦後ずっと元首よりも持続する強力な国民統合装置であった。女性を象徴の位置に据えることを誘うかのような設問は、遠回しながら、国家は女性化してでも生き延びるという意思表示である。そしてフェミニズムはかつて、ナショナリズムを越えたことがない。戦中の女性参政権運動は女性市民という概念をつくり、女性市民を糾合する形で翼賛体制に吸収されていった。ただいま現在も、フェミニズムの参加の対象は国家となる。すべての人は、社会という漠然とした抽象空間に住んでいるのではなく、国家という具体的な組織の中にいるからである。たとえ国境を越えても、そこには他の国家がある。本著者はフェミニズムは近代の鬼っ子。鬼っ子だから生んだ親を、すなわち国家の時代であった近代を食い破るという結論にむけて書く。そうなるだろうか。読者にとっては手に汗にぎる読書体験である。

食い破るとは、その中で思考していた世界をおおうさまざまな思い込みを突破することである。著者にとっては、あらためて国家を発見したその感覚が突破口であった。きっかけは壁の崩壊直後のドイツ滞在であり、国の成り立ちからいっても常に強力で露骨な国民統合努力をつづけているアメリカでの研究交流にあったことは、想像にたかたない。また日本では、女性の戦争協力の歴史研究がすでに積み重ねられていた。

第一部「国民国家とジェンダー」において著者が導入するのは、国際比較の視野であり、「国民国家をジェンダー化するengendering the nation-state」他、反感を呼ぶことを承知で英語付記によって普遍性をもたせたジェンダー研究概論である。距離を置く視線の導入によって、女性の戦争協力のもつ普遍的性格と日本型特殊性（たとえば平等参加型で兵役を要求する英米フェミニズムにたいして、差異を強調して割烹着を制服にした日本の国防婦人会）が浮き彫りになる。また「反省史」が女性の戦争協力を自分のこととして反省すればするほど、研究者の主体性が国家主体に吸収されてゆく皮肉が指摘されている。わたしは、読みながら戦争体験にしろ、すでに語り継ぎという同質集団を前提にした素材で直接的な方法では継承が出来ない時間経過があることを感じた。戦争体験もさらには戦後体験も、政治的な「記憶」つまり歴史として所属が争われている。

著者は体験や記憶の特権化をただ否定するのではなく、第二部『「従軍慰安婦」問題をめぐって』では一転して、国家賠償を求めて証言した元慰安婦の語りに接近する。戦時強姦を制度化した日本国家と、これを民族的恥辱ととらえた韓国ナショナリズムの両方に対峙する個人の証言か、戦争犯罪以上に、戦争そのものを犯罪として告発していると受け止める。第三部『「記憶」の政治学』にあるごとく、発語は受け取る人がいなければ一つの物語をつくらない。発信者と同じく受信者「わたし」が重要である。受信するには、自分をおおっていたパラダイムを壊さなければならない。自分が変わると同時に、受け取った通信を解釈によって自分の物語として書くことになる。この本の読み方としても、著者が引用した数多くの証言や先行研究を著者の見事な解釈に則って受け身な姿勢で読むのではなく、読者もまた自分で直接に読みなおして歴史を自分に取り戻すことが求められよう。超えるとは自分を奪い返すということだったのだ。西川祐子（京都文教大学教員）

|| 原稿募集

上記の書評欄への投稿をお待ちしています。女性目で見直した鋭い批評や、視点を変えたユニークなものをお寄せください。1200字前後です。掲載させて頂いた方には薄々謝、進呈致します。

「あなたの情報・私の情報」とコラム「わたしの推したいこの一冊」は、知って欲しい本、ご意見・情報交換等に御利用ください。400字以内をお願いします。但しこれらの欄は、薄々謝も差し上げられません。ご了承下さい。

尚、ご投稿は会員に限らせていただきます。宛先は

〒604-0024 京都市中京区下妙覚寺町185-804
松香堂書店「ウイメンズ ブックス係」です。

次号の締切は 1998年7月20日。
たくさんのご投稿をお待ちしています。
※次号は1998年8月25日発行の予定です。

編集後記

ドームの野球が面白くないのは、大写し画面でホームランの瞬間を再確認させられるからだ。感動とは、その時、ただ一瞬を自分で受け止める力ではないか。情報が多様になるほど感覚は鈍っていく。私ひとりの感動をみつけるために、書を捨てず、街へ出よう。（やぎみね）

この3カ月に、実に素晴らしいジェンダー論が何冊か出た。読むうちにゾクゾクする様な本に出会うときの嬉しさ。今号もご愛読を！（とよこ）